

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901597		
法人名	医療法人社団 春光台クリニック		
事業所名	春光台クリニック グループホーム 壱番館		
所在地	北海道旭川市春光台3条3丁目5-32		
自己評価作成日	令和4年9月22日	評価結果市町村受理日	令和4年11月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0172901597-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・理念にある「笑いある生活」を目標に、明るい雰囲気の中、笑顔と会話を大切にしている</p> <p>・母体がクリニックのため、定期的な身体、健康管理が充分に行われており、不安なく過ごせている。また緊急時対応もスムーズに行う事が出来る</p> <p>・住宅街の静かな環境にあり、近隣には公園、公民館、保育園など豊富な地域資源に恵まれている</p> <p>・コロナ禍の為、外出行事が制限されているが、可能な限り施設内での行事や食事を楽しめる行事を取り入れ、少人数での散歩など気分転換を図れるよう企画している</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>旭川市郊外の閑静な住宅地に位置する2ユニットの事業所である。近隣には保育園や公民館、公園、また程近い場所にスーパーマーケットや食堂もあり、社会資源に恵まれた至便の良い環境にある。建物は木の温もりがあり、玄関を挟み左右に両ユニットがつながる設計で緊急時での協働や移動もし易い造りである。感染症の流行により制限中ではあるが、2004年の開設時より地域とのつきあいを積極的に行い、様々な活動を通じて良好な関係を育みながら地域福祉の推進役として一躍を担っている。職員は利用者や家族のこれまでにない心情に心を馳せ、自分達で実行可能な支援を模索しアイデアを出し合い、日々、利用者の生活を盛り立て支えている。利用者は職員の支援に応えるかのように生活場面で持てる力を発揮しており、日常の様子は、ほほえみ通信に個別の写真とメッセージ、詳細な心身の状態や効果も記し家族へ発信している。書面開催の運営推進会議に家族も参加しており、労いの言葉や評価も高く、母体が医療機関で連携が強化されている事にも安心感を寄せている。災害種別ごとの詳細なマニュアルや緻密な防災年間計画により毎月もれなく計画を実行するなど防災にも努めている。職員が演芸一座に扮したり、体操コーチや時には寿司職人やシェフになり、楽しみごとやりハピリ、多彩な食を提供するなど力を入れている。職員が黒子となり利用者と一緒に楽しく笑いある毎日をゆったりと安らげる毎日を理念にある通りに実践している事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う コロナ禍の為	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲げており、いつでも確認できるようにしている。	理念はパンフレット、重要事項説明書、事業所内要所へ掲示している。事業所の目指すサービスのあり方が分かりやすく文章化されている。諸所の行事一つにも理念に則った目的や意識となっているかを問う場面もあり意識づけがなされている。理念は常に立ち戻る拠り所として生きたものとなっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の状況に応じて、公民館での図書を利用。以前は隣の保育園との交流や近所の公園でのお祭り見学等、地域交流を行っていた。	感染症流行により地域との活発な相互交流は中止や自粛となっている。毎月の通信を母体クリニックに掲示し情報発信に努めたり町内会の資源回収に協力するなど可能な範囲で取り組んでいる。人流を見極めつつ図書館の利用を再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の通信(プライバシーに配慮したもの)を母体のクリニックに掲示し、認知症があっても地域で暮らしている様子を、写真と文章で紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、対面での開催は行えていないが、書面開催し、家族や地域の方から貴重な意見を頂いている。	運営推進会議は書面にて開催している。メンバー等へ事前にホームの様子や研修、災害対策など写真を交えた分かりやすい資料を送付し、電話で意見聴取している。家族からも貴重な意見が出されており、内容は議事録に纏め関係者へ送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点や不明点があればその都度担当者に連絡をとり確認し、記録を残している。運営推進会議に市職員が参加し、議事録等必要書類を提出している。	市の指導監査課の担当者とは主として介護保険制度に係る案件で指導や意見を仰ぎ得られた内容は「行政相談ノート」に確認事項として記録し適正な運営に努めている。地域包括支援センター主催の「認知症介護者の集い」に参加するなど地域福祉の推進に向け協働している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を行い、職員の再認識に繋げている。またベットの必要の方が多く、必要性の有無を職員同士で話し合い、拘束に繋がらない対応を心掛けている。拘束の必要性が出た時に、代替ケアについて話し合い、身体拘束に至らなかった。	身体拘束適正化に関する指針を定め3か月に1度、身体的拘束適正化検討委員会を開催している。これらに係る内部研修を年2回以上実施し、身体拘束をしないケアの理解や実践に臨んでいる。職員へアンケート調査を行いスピーチロックなどの不適切ケアの認識や確認を行っている。現在、感染対策に伴い玄関を施錠しているが利用者の出入りは職員の見守りで保証されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を行っている。虐待防止検討委員会の設置に向け、虐待に繋がっている事は無いかな等のアンケートをとり、その内容を研修時に報告。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壺番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性の高い入居者がいるかいないかの理解はできているが、制度について学ぶ機会を設けておらず、詳しい理解はできていない。管理者が制度についてある程度理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間をかけ、書いてある文章をただ読むのではなく、事例をあげわかりやすいよう説明している。疑問点があればいつでも受け、安心して入居できるよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、対面対応で意見を伺う機会は減っているが、運営推進会議など必要に応じて電話で家族からの意見を頂いている。重要事項説明時に、市町村の相談窓口を明記し、説明している。	利用者の要望において感染対策上叶えることが難しい内容もあるが食事や散歩の意向はその都度支援に反映させている。現在、家族とは電話対応を主として希望や意向、感想を得ている。直接面会の希望が意見として上がっているが、調査時点では未だ難しい状況にあり家族へはその都度丁寧に説明を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を言える環境にある。連絡ノートを活用して他職員との意見交換や、実践のケアにつなげる為に毎月の会議・必要時のミニ会議がある。	全体会議やユニット会議、又、連絡ノートも活用するなどして職員の意見等を運営や業務、支援に反映させている。日勤帯の細分化による個別の状況に合ったシフト調整や必要物品の購入、通信の見直しが行われ、就業環境を整え働く意欲の向上や質の確保につなげている。個別面談は管理者が必要時に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の事情を考慮しながらシフトの作成や、体調不良など急な休みにも対応し勤務体制を整えている。また、資格取得のための支援もある。介護ロボット(見守り支援)の導入により、職員の負担軽減を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為外部研修の参加は無いが、内部研修を行い、研修記録に残す事で、全職員が再確認できる様にしている。必要に応じて随時個別指導をし、技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は外部研修に参加する事で交流できていたが、コロナ禍の為機会は減った。管理者はリモート会議等で交流の場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の様子や発言を記録に残し、職員間で情報共有する事で、コミュニケーションを取りやすくするとともに、そこから思いを汲みとり、不安なく過ごせるようまずは信頼関係を築く所から始めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談にて家族の思いや不安、入居に至るまでの経緯を聞き、家族とのコミュニケーションを多くとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いを受け止め、利用が必要かどうかの相談や助言、すぐに入居が出来ない状況でも他サービス等の案内を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来る事を見極めながら、一緒に作業をしたり、出来る事以上の力を発揮できるよう支援し、互いに感謝の言葉を掛けあいながら共に生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、日常の様子を文章と写真で作成した通信を送付。必要時には、その都度報告し、意向も確認している。コロナ禍だが、本人と家族の関係性が続くよう、窓越し面会やオンライン面会を行い、窓越し面会時には円満な面会が出来る様、必要に応じて職員が間に入っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、馴染みの場所への外出等は出来ないが、馴染みの方が訪れ、窓越し面会を行っている。オンライン面会も希望に応じて対応している。手紙や電話の連絡もいつでも可能な環境にしている。	家族等との面会は窓越しやオンライン対応で行っている。電話や手紙のやり取りの環境を整えたり、親戚や友人から毎年年賀状が届く利用者や家族から花や差し入れが届いており、その都度職員は側に寄り添い利用者と家族等との関係を暖かく支えている。図書館への同行支援もなされており社会との関係性も維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しながら座席に配慮し、孤立しない様、職員が間に入り一緒に作業を行う機会を設けている。日々アセスメントしながら、必要時には席替えをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用中から家族との関係性を大事にしており、終了後も相談や支援に応じやすい体制を整えている。必要時連絡がとれるよう、退去先や家族の連絡先をファイルしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に過去の生活スタイル等を家族に記入してもらい、同様の生活を送るのは難しいが、ホームでの生活に活かせるようにしている。日常の様子や会話・行動等を記録に残し、職員間で共有、検討している。	職員は利用者との会話や関わりの中で、1人ひとりの思いや意向について関心を払い把握に努めている。職員と2人だけで話す機会や職員を連れて本意を知る環境も作るなど、その人らしく暮らし続ける支援に向けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のファイルを作成し保管。入居時に本人・家族やケアマネから聞き取りした情報から、生活歴等を把握する事が出来る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックのほか、日々の心身の変化を個人記録や連絡ノートに記録し、いつでも確認できる。その中から出来る事や得意な事を抽出。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全体の意見を収集、課題の抽出を行い、ケアプラン担当職員、計画作成担当者と共に作成。評価は毎月家族に報告し、何かあれば意見を頂くようにしている。半年ごとにご家族の意向も確認しながら反映させている。	口腔・栄養スクリーニングと理学療法士や作業療法士と連携した生活機能アセスメントを加えることによりモニタリングやアセスメントの精度がより高まっており、職員の支援への提言も活発である。状態を的確に把握した中での今後のより良い支援につなげる介護計画を作成している。家族にも評価を送付し計画への意向を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアプランも綴り毎日評価している。モニタリング時に参加できない職員も居るため、気になる事や、試して見たいこと等はノートに記載し、ケアプランの見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人ならではのサービスとして、急変時速やかにNS,Drに連絡がとれる体制があり、ホームに点滴や医薬品、心電計などを備えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書好きな方は近隣の図書館に本を借りに行き楽しみの一つとなっている。地域のSOSネットワークに加入しており地域との協力体制も整っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行っており、ほとんどの家族が、緊急時迅速に対応できる母体のクリニックへ変更している。本人の希望やご家族の意向を確認しながら専門医への受診も必要に応じて行っている。	近距離にある運営法人のクリニック受診が主であり職員同行の通院受診は徒歩や車椅子、車両にて出かけ利用者の馴染みとなっている。急変時の相談や迅速な対応などの協力が得られ、週1回医療連携で看護師が訪れている。毎月及び必要時の訪問歯科診療の体制を整え、個別のオーラルケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日業務日誌を母体のクリニックにFAXで報告しており、状態変化や急変時等は気軽に相談ができ、必要に応じ受診がすぐにできる体制となっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を提出。入院先のMSWとも連絡をとり、早期退院に向け情報交換をしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について事例等を交え説明し、家族の意向を確認している。可能な方へは早期の段階で本人にも思いを聞きアセスメントシートに記載している。看取りケアについての研修を行っている。	利用契約時に「重度化した場合における指針・看取り介護に関する指針」を説明し同意を得ている。状態変化に応じて家族と話し合いを重ね、主治医の判断に基づき関係者間で今後の対応方針を協議している。今年は1名の看取り支援に尽力した。職員は看取りケア研修を受講し対応力を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを事務所に掲示、職員はいつでも確認する事ができる。AEDも設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施。スプリンクラー、警報機等の設備会社による点検もしている。災害時に備えて発電機やランタン、食料等の備蓄をしている。グループラインにより、迅速に緊急時の連絡ができ、地域に住んでいる職員やその家族がすぐに来れる体制ができている。	令和4年4月に夜間想定、7月に日中想定 of 火災避難訓練を実施し地震想定の話し合いもなされた。緊急時の支援体制や災害種別ごとのマニュアル、災害備蓄品を確保している。防災年間予定表を作成し、避難経路・マニュアルの確認、設備点検等の計画的実施に努めている。	自然災害発生時における業務継続計画(BCP)の策定に当たっては消防署や市の担当部署から最新の防災に関する知見を得たり、運営推進会議で進捗状況を報告することにより継続計画への新たな視点を確認するなど、関係機関等とも連携し策定を進めることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や状況に合わせ、その人にあった声掛けを行い対応している。馴れ合いにならない様、気を付け定期的な研修もしている。	職員は個人情報保護法や接遇に係る研修を受講している。利用者との会話も多く笑顔で楽しい雰囲気を作っている。昨年に続き今年も職員アンケートを実施し、誇りや人格を損ねるような言葉かけの如何について確認を行っている。個人記録類は事務室で管理している。	共に暮らす日常において良い意味での馴れ親しんだ接遇と利用者の尊厳に係る言葉がけの大切さについてのメリハリについて事業所は永遠のテーマであるとしている。研修の一例として、受ける側の体験が得られるロールプレイ学習も有効であると考えられる。言葉の内容や語調等、日常的な確認と改善に向けた事業所全体での取り組みを強化する意向であるので今後の取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューや飲み物を選ぶ機会を設けたり、誕生日に食べたいものを提供できるよう、日々の会話などからアセスメントしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	図書館の利用や畑での収穫、自室で読書など、個々のペースに合わせた過ごし方となるよう支援。表出が困難な方は表情や状態に合わせ、その人らしく生活出来る様にしている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みや季節に合わせ衣類を選択したり、好みの化粧水や乳液などを使用している。希望があれば毛染めや髪のカット等を行いおしゃれを楽しんでいる。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物や食べたい物を会話の中から聞き取り、メニューに取り入れている。コロナ禍の為、一緒に食事の準備をする事が出来ないが、中庭で採れた野菜で何を作ろうかと一緒に考え、楽しみの一つにしている。	夕食と土日祝日に限り主食・汁物以外は外部委託の食事である。それ以外は利用者の希望を取り入れたり、栄養バランス等を考慮しつつ楽しめる食を提供している。行事での手製弁当や職員による握り寿司、屋台風メニュー、キッチンカーの出来立てラーメン、季節を味わう手作りおやつ、畑の野菜が食卓に上るなど多彩な食事支援である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーに配慮しながら、個々の状態に合わせた食事量や形態を提供している。チェック表に食事・水分量を記録し、いつもと違う様子があればすぐに対応できる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防として、毎食後口腔ケアを実施。昼食後は、本人の磨き残しなどを職員が介助し、口腔内の状況を把握している。必要に応じて歯科往診へ繋げたり、定期的な往診を受け、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながらトイレ間隔の把握をし、必要に応じてトイレ促しの声掛けや介助をする事で、排泄の失敗が少なくなるようにしている。	「水分・排泄チェック表」を参照し個々に合わせたトイレ誘導を行っている。基本的にトイレでの排泄ではあるが、眠気や気分の高低、身体の痛み具合などを鑑み、夜間帯においてはベッド上で交換する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に日頃から繊維質を含む食材の取り入れや、乳製品の提供を行っている他、運動で自然な排便を目指しているが、困難な場合は下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴を目安に、本人の体調やその日の気分を考慮している。拒否時には、時間や日にち、対応職員を変えながら、気持ちよく入浴できるように工夫している。	曜日や午前午後を問わず入浴が可能で1人ずつ湯を交換している。3日に1回の入浴希望や長風呂、本人に好きな入浴剤を選んでもらうなど個々の満足度に配慮している。浴槽を跨ぐのが困難な利用者は足浴で保温をとりながらシャワー浴で対応している。入浴を見送りがちになる利用者へは入浴日をメモで渡したり、夜勤者から声かけをするなど入浴への導入を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に合わせて、日中は適度な休息を取りながら運動や作業などを行い活動量をあげ、夜間の安眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にお薬ファイルを用意したり、受診記録に薬の変更の有無を記載し、いつでも確認できる様になっている。服薬時は確実に飲み込んだか口腔内を確認。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた作業を提供する事で、役割を持って行う事ができ、自ら進んで行う姿みられている。職員と会話をしながら一緒に行う事で、有する力以上に発揮出来る様支援している。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、積極的な外出行事は行えないが、状況に合わせて近くの公園を散歩したり、ドライブや日光浴、ホーム前で焼肉をしたりと、感染対策を行いながら出来る範囲で戸外での生活を楽しめる様努力している。	日にちを違え小グループごとに分かれて桜見学や北彩都ガーデン、常盤公園へドライブに出かけている。自然が感じられる周辺への散歩は利用者自ら玄関で待機するなど楽しみとなっている。天気の良い日はおやつ時間を玄関前庭で過ごし、畑作業も利用者が担うなど利用者個々の状態に応じつつ戸外での生活支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持している方も居るが、コロナ禍の為外出の機会が無く使用する機会がない。移動販売等で使用の機会がある時は、ホームで預かっている本人の小遣いから支払う事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話回線があり、電話の設置が可能。ホームの電話を使用し、家族と連絡を取る事が出来る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに温度計を設置し、確認しながら変化に伴った温度調整(クーラー、加湿器、暖房)を行い、快適に過ごせるようにしている。季節に伴った館内の飾り付けをする事もあり、コミュニケーションツールの一つとなっている。	全体的に広く開放感があり、居間の大きな窓から中庭や花壇、畑も眺められ季節感を感じることが出来る。ソファやマッサージチェアの配置を工夫し、セミパブリックスペースとしての居場所も確保されている。4つのテーブルを設置し密を避ける感染対策を行っている。飾り付けは慣れ親しんだ日本文化の行事を主とし風習を堪能している。エアコン、床暖も完備し年間を通じ快適性を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭が見える窓にソファを配置し、外を眺めたり、うたた寝したりと、一人でもゆったり過ごせる配置をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や家族との写真を飾る等、安全に配慮しながら、居心地良く過ごせるよう配置している。希望でテレビやラジオを置いている方もいる。	居室は7.5畳の広さがありタンス、防災カーテン、照明器具、TV・電話回線を完備している。馴染みの家具や調度品、大切な品々が持ち込まれ、動線や感染対策に配慮しつつ安心、安全な環境を整えている。日めくりの曆やクローゼットに衣類のラベルを貼るなどを行い混乱なく生活するための丁寧な個別対応も窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	クローゼットに何が入っているか貼紙をする事で、自身で出し入れができる様にしたり、車イスの方が行動しやすいよう動線確保を行うなど、状態変化に合わせ、都度見直している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901597		
法人名	医療法人社団 春光台クリニック		
事業所名	春光台クリニック グループホーム 貳番館		
所在地	北海道旭川市春光台3条3丁目5-32		
自己評価作成日	令和4年9月22日	評価結果市町村受理日	令和4年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・理念にある「笑いある生活」を目標に、明るい雰囲気の中、笑顔と会話を大切にしている ・母体がクリニックのため、定期的な身体、健康管理が充分に行われており、不安なく過ごせている ・また緊急時対応もスムーズに行う事が出来る ・住宅街の静かな環境にあり、近隣には公園、公民館、保育園など豊富な地域資源に恵まれている ・コロナ禍の為、外出行事が制限されているが、可能な限り施設内での行事や食事を楽しめる行事を取り入れ、少人数での散歩など気分転換を図れるよう企画している
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JivvosvoCd=0172901597-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年10月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で話し合い作成し、玄関に掲示しており、常に確認できる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年では保育園との合同での行事や町内開催のお祭りに参加していた。現在はコロナ禍の為他事業所との関わりはほとんどもてていないが、ご近所の方と会った時は挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の通信(プライバシーに配慮したもの)を母体のクリニックに掲示し、認知症があっても地域で暮らしている様子を、写真と文章で紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年であれば、地域の方や家族に呼びかけ会議を開催しているが、今年度は書面開催し、家族や地域の方から貴重な意見を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点や不明点があればその都度担当者に連絡をとり確認し、記録を残している。運営推進会議に市職員が参加し、議事録等必要書類を提出している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を行っており、ベッド柵を設置する際の注意事項や声掛けの仕方(言葉による拘束)等、ケアの中で行われていないが再確認している。転倒リスクのある方が「起きたい」と思った時にすぐに対応できるようセンサーを設置。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を行う事で虐待について再認識できており、職員同士で気軽に話せる環境作りを心掛けている。虐待防止検討委員会の設置に向け、職員アンケートを実施。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要性の高い入居者がおらず、制度に対する知識が薄れてきている。管理者が制度についてある程度理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間をかけ、書いてある文章をただ読むのではなく、事例をあげわかりやすいよう説明している。契約内容の変更時は、説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で書面開催の際には、電話にて意見要望を頂くようにしている。重要事項説明時に、市町村の相談窓口を明記し、説明している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や必要時のミニ会議で職員と管理者の意見交換の場があり、入居者のケアについて出た意見は、実践につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や手当等で目に見えて補助されており、希望休暇も取りやすい。介護ロボット(見守り支援)の導入により、職員の負担軽減を目指している。資格取得時の受験料補助がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為外部研修には参加できていないが、内部研修を開催し、研修後は記録を残し、全職員が周知できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は外部研修に参加する事で交流できていたが、コロナ禍の為機会は減った。管理者はリモート会議等で交流の場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの生活に慣れ安心して暮らせるよう、コミュニケーションを大切にしており、会話の中から気持ちを取り戻している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談にて家族の思いや不安、入居に至るまでの経緯を聞き、家族とのコミュニケーションを多くとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望に合ったサービスを見極め、入居の申込みや他サービスへの案内等行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の得意な事や好きな事を探り、お手伝いしていただいた際には、感謝の言葉を掛けている。一方的に「これやって」と頼むのではなく、「手伝ってほしい」と声を掛け、職員も一緒に行う事も多い。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、日常の様子を文章と写真で作成した通信を送付。必要時には、その都度報告し、意向も確認している。コロナ禍だが、本人と家族の関係性が続くよう、窓越し面会やオンライン面会を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、馴染みの場に行く機会がほとんど無いが、散歩にて自分の住んでいた地域まで足を延ばし当時の話などを楽しんでいる方も居る。家族以外でも窓越し面会やオンライン面会が行える体制をとっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の人間関係を把握しつつ、気の合う入居者だけでなく、新たな関係性が築けるよう職員が間に入ったり、一緒に作業をする機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時連絡がとれるよう、退去先や家族の連絡先をファイルしている。過去一年で相談等受けていないが、体制は整っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や会話・行動等を記録に残し、職員間で共有する事で、本人の思いを汲み取っている。困難な場合もある為、入居時に過去の生活についての書類を家族に記入してもらっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人家族やケアマネから聞き取りした情報を個人ごとにファイルし保管している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、食事・水分量、排泄、バイタル、睡眠等を記録し状態変化がないか確認。作業や行事を通して、出来ることや得意なこと等を把握。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の記録や本人の状態をアセスメントし、本人・家族からの意向を聞き出し、職員・計画作成担当者が共同して作成。評価は毎月家族に報告し、何かあれば意見を頂くようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアプランも綴り毎日評価している。モニタリング時に参加できない職員も居るため、気になる事や、試して見たいこと等はノートに記載し、ケアプランの見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人ならではのサービスとして、急変時速やかにNS.Drに連絡がとれる体制があり、ホームに点滴や医薬品、心電計などを備えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園や公民館、スーパー、保育園等があり、散歩中に挨拶を交わしたり、道路の清掃等を通じ地域の一員としての役割を果たしている。地域のSOSネットワークに加入しており、必要時の協力体制が整っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行っており、ほとんどの家族が、緊急時迅速に対応できる母体のクリニックへ変更している。専門医へも本人・家族の希望に応じ受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝業務日誌を母体のクリニックへFAXし共有しており、必要時は相談し、受診や対応等の指示をもらっている。同法人の為、気軽に相談できる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を提出。入院先のソーシャルワーカーと連絡をとり、早期退院に向けて、状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ホームでの事例を交えながら説明し、家族の意向を確認。看取りケアに入る際も、ホームで出来る事や加算の説明を改めて家族に行い、本人家族の思いに添って過ごせるよう、医療連携を取りながら進めている。毎年、看取りケアについての研修を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルがあり、事務所にも掲示している為、確認する事ができる。AEDも設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施。スプリンクラー、警報機等の設備会社による点検もしている。災害時に備え発電機やランタン、食料等の備蓄をしている。グループラインにより、迅速に緊急時の連絡ができ、地域に住んでいる職員やその家族がすぐに来れる体制ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にて、慣れ合いにならない様、声掛けの仕方の見直しや他職員の声かけで気になった点等を再確認している。個人情報事務所で保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や誕生日に食べたいものを聞いたり、飲物や入浴の時間など選択肢を用意し選ぶ機会がある。困難な方は今までの好みを考慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	眠気が強かったり、起きたくない等の意向が見られた時は、無理に起こそうとせず休んで頂き、食事や入浴の時間をずらすなどの対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で訪問美容のサービスを受ける事は難しい為、美容師の資格を持った職員がカットし、身だしなみに気を付けている。季節や気温に合わせた服装を本人と相談しながら選ぶ事で装いを楽しむ事が出来ている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の為、外食や、一緒に調理などは出来ないが、季節にあった献立や行事食を企画し、キッチンカーによる出来たてのラーメンを食べたり、職員がお寿司を握ったりと、ホームの中で食事を楽しめる工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のチェック表や毎月の体重測定から個々の状態を把握し、必要に応じて食事の量を調整。小さなお皿にこんもり盛り付けて多く見せたり、甘い物の摂り過ぎには、身体によい甘味料を使用したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。個々に合わせて歯間ブラシや口腔ウェットティ等を使用し、清潔に保っている。最初から介助するのではなく、初めは自分だけがいやブラシをして頂くことで、出来る事の支援もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考に、個々に合わせたトイレ誘導や、失禁時の対応を行っている。失敗してしまった事を少しでも嫌な思いにならない様声の掛け方にも配慮し、汚れた衣類のスムーズな交換へと繋げている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中に野菜や乳製品を取り入れたり、歩行運動やストレッチなどの運動をする事で、自然な排便を目指しているが、困難な場合は下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が面倒な方に、入浴剤を使う事で気分が上がるよう工夫したり、事前に本人と入浴時間を決め、スムーズに入浴出来る様工夫している。3日に一回入りたい方、長風呂の方がゆっくり入浴できるような日程を組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠に適した室温・湿度調整に気を配っている。日中はなるべくリビングで過ごし、作業や運動で活動量をあげ、夜間の良眠に繋げている。離床時間が長いと疲れてしまう方には、状態に合わせた休息時間としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬や頓服で服薬している薬の情報は、いつでも確認出来る様、ファイルに保管されている。服薬時は確実に飲み込んだか口腔内を確認したり、義歯の間に錠剤が入り込んでしまう方には、服薬の前に義歯を外して頂くなどの工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ダンボール縛りやウエス切り等、出来る事を見極め、パズルや歌を唄う事などを楽しんでいる方も居る。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、商業施設等への外出は出来ていないが、感染対策をしての近所や公園への散歩やドライブを行っている。散歩を楽しめない方でも、玄関先でおやつを食べる等、外気に触れる機会となっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為買物の機会がないが、本人家族の希望で少額のお金を所持している方も居る。自己管理が困難な方でも買物が出来る様、事務所管理のお財布があり、使用した記録は毎月家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由だが、現在希望されている方は居ない。毎年、親族や友人からの年賀状が届き昔の思い出話に花が咲く事がある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染対策の為の定期的な換気はもちろんの事、季節に合わせてクーラー・加湿器・暖房等で調整している。室内に居ても季節を感じられる様、お花や装飾品を飾り付ける工夫をしている。排泄物などの臭いなどにも配慮し、その都度、消毒や換気を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ禍の為、密にならない様な配置になっているが、仲の良い入居者同士で過ごしたり、窓側にマッサージチェアを置き、一人の時間を楽めるよう自由に使用できる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、家族の写真や馴染みの物を持参し、安全に配慮し設置。それぞれが希望の家電(TV・ラジカセなど)を置き、居室でゆっくり過ごす時間がある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に貼紙をする事で、入居して間もない方も迷う事無く過ごされている。リビングや廊下は歩行器や車椅子の方が十分に通れる様に動線を確保している。		

目標達成計画

事業所名 春光台クリニック グループホーム

作成日：令和 4年 10月 17日

市町村受理日：令和 4年 11月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	自然災害に関するBCPが策定されていない	関係機関と連携しながら自然災害BCPを策定する	① 関係資料の収集 ② 消防署・市の担当部署からの情報収集 ③ 上記収集し、BCP策定	2年
2	36	入居者への接遇について、言葉かけが慣れ合いになってしまう	研修を定期的に行い、入居者の尊厳を守る	① 3か月ごとの研修 言葉かけについて、尊厳について、職員アンケート、ストレスケア	2年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。